

# 令和7年度但馬力指標

## 主な指標

最新値 前調査比

指標	内容	割合	順位	前調査比
魅力	地域では山、川、海などの自然環境は守られていると思う人の割合	58.8%	県内No.2	↑
	観光客入込数	8,219千人	県内No.7	↑
交流・つながり	地域の異なる世代の人とつきあいがある人の割合	55.0%	県内No.2	↑
	地域外の人との交流が盛んに行われていると思う人の割合	16.4%	地域独自	↓
多様性	住んでいる地域をより良くしたり、盛り上げたりする活動に参加している、または参加したい人の割合	46.4%	県内No.1	↑
	多様な働き方を選択しやすい社会だと思う人の割合	13.9%	県内No.10	↑
次世代	保育所入所待機者数	0人 ※R6数値	1番目に少ない	⇒
	若者が希望を持てる社会だと思う人の割合	7.1%	県内No.6	↑
安心・安全	人口1万人あたり刑法犯認知件数	32.4件 ※R4数値	2番目に少ない	↑
	地域では安心できる医療の環境が整っていると思う人の割合	33.3%	県内No.9	↓

## 分析結果・コメント

自然豊かな但馬で、河川・海岸の保全活動、景観維持への取り組みが継続されてきたこと、山陰海岸ジオパークの認定などにより、住民の評価が向上。

コロナ禍を経て回復傾向が続くが、過去には1千万人を記録していたこともある。潜在的なポテンシャル(温泉、自然、歴史・文化)やインバウンドなど今後の伸びに期待。

もともと三世帯同居の世帯が多く、世代間交流の垣根が低い。地域の祭りなど行事が盛んなことも県内上位の理由と考えられる。

地域住民が他地域の方との交流の実感を持つまでには至っていない。多自然地域への移住希望者の増加や関係人口の拡大に期待。

地域活動やまちづくりへの関心が高く、参加意欲を持つ住民が多い。世代間交流の高さと相まって、地域を支える人的基盤の高さが表れている。

R7にかけてわずかに上昇しているものの、依然として低水準である。雇用者の意識改革を促す取り組みが必要と考える。

待機者0人を達成しており、保育所の受け入れ体制が安定していることが分かる。子育て環境における但馬地域の強みの一つといえる。

年度ごとの変動が大きく、社会全体の状況に影響を受けやすい指標。但馬地域では特に、若者の進学先、就職先等の長年の課題がある。

全国的な犯罪減少傾向に加え、地域の見守り活動の実施や防犯意識の普及啓発効果が表れている。

医師数は一定水準にあるものの、診療科の偏在や将来不安により、住民の安心感が十分に高まっていない。

※ 県内の順位は10県民局中の順位を表しています【令和8年3月末更新】

※ 全152指標の内、主な指標を掲載しています